協 会 概 要

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

2026年7月

協会ビジョン・ミッション

ビジョン

ブラインドサッカーを通じて **視覚障がい者と健常者が**
当たり前に混ざり合う社会を実現すること

ミッション

ブラインドサッカーに携わるものが **障害の有無にかかわらず**
生きがいを持って生きることに寄与すること

協会概要

名称	：	特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会 (Japan Blind Football Association/JBFA) ※2010年8月1日から「日本視覚障害者サッカー協会」より改称 ※公益財団法人 日本パラスポーツ協会 正会員 ※ブラインドサッカーの国内統括競技団体
競技正式名称	：	ブラインドフットボール（Blind Football）
競技カテゴリ	：	ブラインドサッカー：全盲（B1カテゴリ） ロービジョンフットサル：弱視（B2／B3カテゴリ）
設立	：	2002年10月6日／ＮＰＯ法人設立登記日：2015年10月27日
決算期	：	7月31日
主要役員	：	理事長 金子久子／ 副理事長 星加良司、村松邦子 専務理事 松崎英吾
主要事業部	：	ブラインドサッカー男子日本代表グループ［16名］ ブラインドサッカー女子日本代表グループ［9名］ LVF日本代表グループ[9名]／育成グループ［12名］ 医事委員会［28名］／審判委員会[8名] 事業戦略部［1名］経営管理部［12名］ 事業運営部[13名]／事業推進部［6名］ 広報コミュニケーション室［3名］ ハイパフォーマンス事務局[6名]／独立委員会事務局[1名] のべ人数 124名（有給スタッフ数 43名） ＊26年7月1日時点
事務所	：	〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27　ペアーズビル3階 [TEL] 03-6908-8907　　[FAX] 03-6908-8908 [WEB] www.b-soccer.jp

理事長　金子 久子

東京都日野市出身。慶應大学卒業後、大卒女子が総合職で働ける外資系銀行に就職。第一子出産、子に障害があり一旦キャリアを断念。その後フリーランス通訳業に従事する傍ら、障害者のソーシャルインクルージョンを提唱するNPO活動を牽引。2004年アクサ生命に通訳者として入社。2009年同社初代ダイバーシティ・マネージャーに選任され、障がい者雇用や女性活躍、JBFAとの協働を推進、さらに組織文化の変革、社員エンゲージメント向上に注力する。2016年早稲田大学MBAスクール首席卒業、経営学修士取得。アクサ損害保険の人事役員に登用される。製薬系企業、人材サービス企業で人事役員・CHROを歴任。2019年よりJBFA理事、2024年より同理事長に就任。

専務理事　松崎 英吾

千葉県松戸市出身。国際基督教大学卒。一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション代表理事、日本パラリンピック委員会強化本部副本部長。「ブラインドサッカーを通じて社会を変えたい」との想いから、日本視覚障害者サッカー協会（現・日本ブラインドサッカー協会）へ転じ「サッカーで混ざる」をビジョンに掲げる。サスティナビリティがあり、事業型で非営利という新しい形のスポーツ組織を目指す。元：公益財団法人日本サッカー協会財務委員会委員、 IBSA（国際視覚障害者スポーツ連盟）財務担当理事

JBFAの特徴

1）中央競技団体（NF)

- 1つの国に、1つのスポーツ、1つの中央競技団体（以下、NF)が統括する（暗黙の）ルールが世界共通で存在します。
- JBFAはブラインドサッカー（ブラインドフットボール）、ロービジョンフットサルという2つの国際的種目の、日本における中央競技団体です。
- ブラインドサッカー（男子）はパラリンピックの正式種目に2004年から採用されています。
- JBFAはNFとして競技を統括し、日本代表を組織し、日本選手権等の競技大会を推進しています。
- また、NFとしてはスポーツ庁のガバナンスを受けています。

2）社会課題解決、啓発型NPO

- NFとしての成功は、競技力が高まり、国際大会でメダルを獲得し、国内で競技人口が広がることにあります。他方で、障がい者スポーツとしては、競技人口が広がること自体は、必ずしも良いことと言い切れません。
- JBFAはNFとしてのみならず、「視覚障がい」や視覚にまつわる諸課題を社会課題とし、アタックしていく非営利組織でもあります。
- そのため、福祉事業所としての同行援護（視覚障がい者の外出支援事業）や視覚障がい者向けのコールセンターなども運営しています。
- また、世界でも先進的に「健常者」を顧客ととらえ、健常者向けの事業を展開してきました。

3）事業型

- 障がい者スポーツ団体では、パラリンピックスポーツを含めて、雇用を生めている団体は数少ないです。2015年から、日本財団が一つのNFに2-3名の人件費を助成して、東京パラリンピックに向けた活動量の増加を支える取り組みを開始しましたが、多くの団体は、依然として、その財源を頼りに人件費をまかなっています。
- JBFAでは、事業型を掲げ、健常者に対して企業研修や、一般の小中学校向けの授業などを、相応のスケールで展開しています。必然、視覚障がい者当事者を含め、雇用も生み、持続可能性のある取り組みを目指しています。
- 一般NFの主財源は、国費に基づく「強化費」といわれる分配金と、上記の日本財団の資金で成り立ってます。JBFAは助成金率が10年にわたって20-30%程度となっています。

4）グローバルな活動視野

- JBFAは日本におけるNFですが、視覚課題はグローバルで深刻です。たとえば、白内障が視覚障がい原因となるのは、日本では1%未満と言われ、途上国を含む世界では約30%の原因と言われます。医療アクセスやソリューションへのアクセスが世界では大きく偏っている分野といえます。
- ブラインドサッカーは世界でサッカーの文脈で広がっており、また見るものも、サッカーとして魅了しています。サッカーを通じたハブとなる機能を力強く発揮しており、グローバル企業、ナショナル企業、スタートアップ企業、医療機関、研究所、NGO、スポーツ組織などを結びつけています。
- それらの機能を推進していくため、JBFAが出資し国際NGOを財団法人として立ち上げたほか、「イノベーション・ハブ」としてマルチステイクホルダーの力でグローバルイシューに挑んでいます。

ブラインドサッカーに関する関係組織

JBFA
日本ブラインドサッカー協会

【中央競技連盟 x 社会課題解決NPO】

ブラインドサッカーを通じて
視覚障がい者と健常者が
当たり前に混ざり合う社会を実現すること

ブラインドサッカーに携わるものが
障害の有無にかかわらず
生きがいを持って生きることに
寄与すること

- 日本国内の中央競技団体
- 競技の強化、日本代表の組織派遣、トップリーグの開催から育成、普及など、競技スポーツとしての振興
- D&I推進のためのブラインドサッカー利活用。子ども向け体験学習や、企業研修を用いた推進
- 福祉事業も展開し、障がい者福祉としてのスポーツ利活用を推進

IBF Foundation
インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション

【国際NGO】

ブラインドサッカーで**人と知恵をつなぎ**、
視覚障がいに解を出す。

人生というフィールドを、
誰もが自分らしく生きられる世界へ。

- 世界でブラインドサッカーの普及、推進の支援
- スポーツの価値を、スポーツ振興のみならず、視覚障がい者の課題解決の取り組みへ方向づけるロール
- スポーツ団体、民間企業、グローバルNGO、医療と福祉団体を結びつける

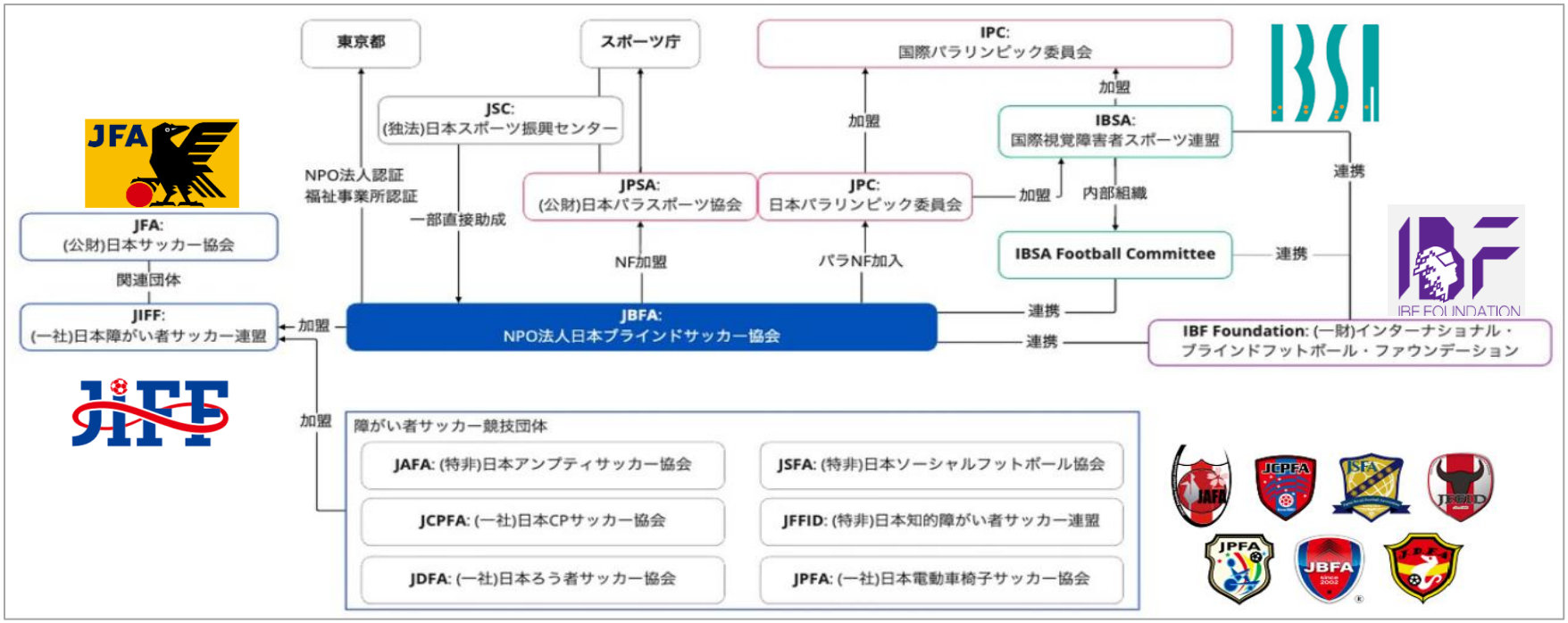
IBSA
国際視覚障害者スポーツ連盟

【国際競技連盟】

視覚障がい者がスポーツを通じて
人生を変えるような質の高い機会と
社会的統合を経験できるよう支援し、
世界に教育と感動を与える。
IBSAが推進するスポーツに積極的に参加
することで、世界中の視覚障害者が卓越
した成績を収める。

- 世界で視覚障がい者スポーツを統括する国際競技連盟（IF)
- ブラインドサッカーを含む、3つのパラリンピックスポーツを有する（柔道、ゴールボール）
- 国際パラリンピック委員会に加盟

外部ガバナンス構造



グッドガバナンス認証
2023G(0)0088

JBFAは、非営利組織の信頼の証である「グッドガバナンス認証」（公益財団法人日本非営利組織評価センター）を取得。
＊難易度の高い認証を、オリパラ種目のNFで取得しているのはJBFAのみ
＊現在「グッドガバナンス認証」から「グッドギビング認証」に承認団体の制度移行中

NPO法人	：	東京都認証による活動。事業、財務報告を報告し法人としての適切性を監理いただく
中央競技団体（NF）	：	スポーツ庁・JPSA監理のもと、競技団体としてスポーツ界におけるルール遵守
パラリンピックスポーツ	：	JPC（JPSAの内部組織）に登録し、パラリンピック出場に必要な手続き等の遵守
視覚障がい者スポーツ	：	IBSAによって国際的に統治。JPCを介して・ないし協調して、IBSAとコミュニケーションを図る
サッカーファミリー	：	JIFFを通じて、JFAとの情報共有、連携を図る
福祉活動	：	東京都認証のもと、監理され、福祉事業所として事業展開
国際貢献活動	：	IBSA Football Committee、IBF Foundationと連携・協調し、 国際的な視覚障がい者、視覚障がいスポーツへの貢献を図る

ステークホルダーエンゲージメント

ウェブサイトには企業のIRサイトを意識した、「ステイクホルダーエンゲージメントサイト」を説明責任の強化として公開。
https://stakeholder.b-soccer.jp/

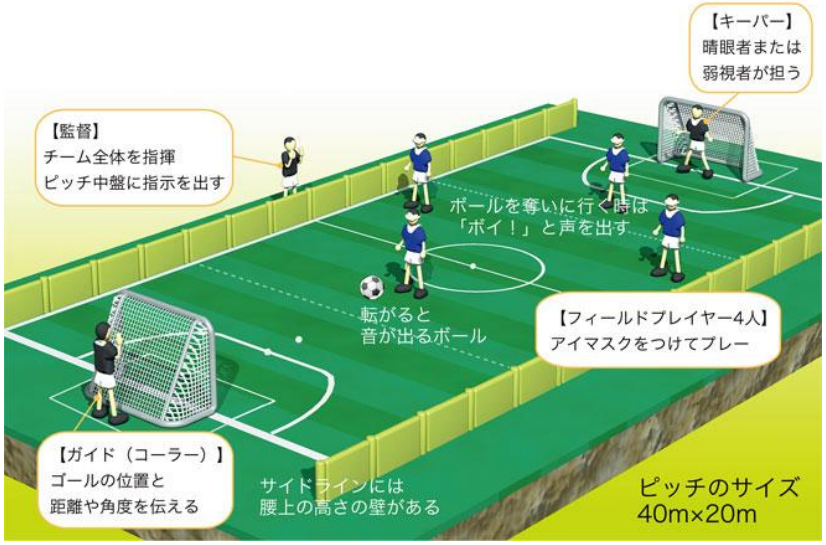
ブラインドサッカー®・ロービジョンフットサルとは

「視覚障がい者サッカー」は「見え方」に応じてルールが設計され、２つのカテゴリーがあります。

ブラインドサッカー　Blind Football

全盲カテゴリ（B1）とされ、アイマスクを装着し、転がると音の鳴るボールでプレーする5人制のサッカーです。

・フィールドプレーヤーはアイマスクを着用し、視力上の公正をはかります。
・コートはフットサルと同じ広さで20m×40m。サイドライン上に高さ1.2mのサイドフェンスが設置されます。
・フィールドプレーヤーは4名、ゴールキーパーが1名、加えて攻めるゴールの裏側にはガイドがいます。ゴールキーパーは晴眼者又は弱視者が務めます。ガイド、監督には条件がありません。
・認識をはかるため、相手プレーヤーへ向かうときは「ボイ」という声をかけます。
・日本国内では、フィールドプレーヤーは晴眼者でもアイマスクを装着しプレーすることができます。国際競技大会では、医療上B1(全盲から光覚：光を感じる程度の視力）と認定されたプレーヤーのみが出場できます。



ブラインドサッカー®・ロービジョンフットサルとは

「視覚障がい者サッカー」は「見え方」に応じてルールが設計され、２つのカテゴリーがあります。

ロービジョンフットサル　Partially Sighted Football

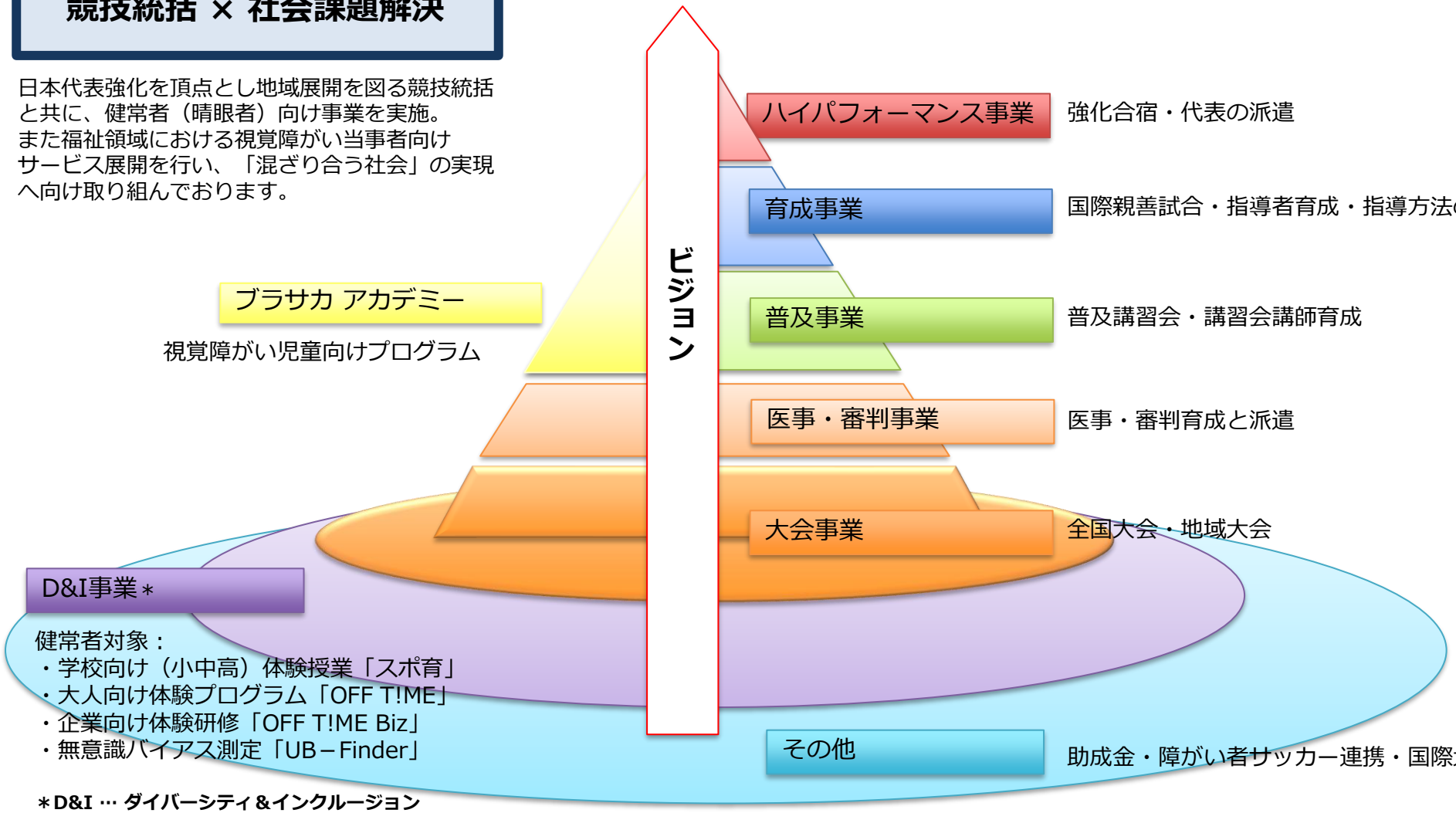
「弱視（ロービジョン）者」が、一人一人異なるそれぞれの見え方を補い合いながら、声による連携を活かしプレーするフットサル。
もともと「ブラインドサッカーB2/B3クラス」という名称でしたが、競技を広く知ってもらうため、そして社会的に認知度、理解度の低い弱視(ロービジョン) について知るきっかけ作りに寄与するため、2013年12月に現在の名称に変更されました。
固有のルールとして以下があります。

・ピッチ上の選手はアイマスクを装着せず、通常のフットサルボールを使用し、サイドラインにフェンスは設置されません。
・フィールドプレーヤー4人のうち、最低2人はより見えにくい状態のB2クラスの選手がいなければならないこと。
・B3クラスの選手は腕章を装着します。
・ピッチやラインと区別がつく色のボールを使用します。

協会事業概要

競技統括 × 社会課題解決

日本代表強化を頂点とし地域展開を図る競技統括と共に、健常者（晴眼者）向け事業を実施。
また福祉領域における視覚障がい当事者向けサービス展開を行い、「混ざり合う社会」の実現へ向け取り組んでおります。



福祉サービス　おたすけ電話相談窓口、同行援護サービス“meetme-X”

ファクトインフォメーション（2026年7月現在）

■登録クラブ数：ブラインドサッカー29・ロービジョンフットサル4　■競技人口：750名（選手以外の監督、ガイド、スタッフ等を含む）

■クラブ活動地域：北海道・宮城県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・ 山梨県・長野県・石川県・静岡県・愛知県・岐阜県・大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・島根県・福岡県・沖縄県（計21都道府県）

■年間平均公式試合数：約80試合　■ボランティア：登録数1,133名　■登録審判数：67名　■公認コーチ：312名

■主要取引行政：東京都・品川区・葛飾区・小平市・墨田区・町田市・文京区・調布市・八王子市・さいたま市・本庄市・横浜市・佐倉市・成田市 等

■同行援護従業者研修 修了者数：242名

■年間事業実績

実績	学校向け スポ育		個人参加型 OFF T!ME		企業団体向け OFF T!ME biz		イベント等		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
18年度	458	15,736	40	614	108	4,883	134	–	740	21,233
19年度	634	21,272	36	591	94	4,714	124	–	888	26,577
20年度	307	10,736	23	236	24	900	28	–	382	11,872
21年度	333	12,488	15	197	35	1,355	73	–	456	14,040
22年度	439	14,788	28	330	57	2,292	139	–	663	17,410
23年度	408	13,347	24	372	69	3,219	113	–	614	16,938
24年度	363	12,881	23	354	89	3,335	118	(20,574)	593	16,570*
25年度	287	9,387	23	368	111	4,455	74	(4,895)	421	14,210*

*イベント人数は含めず

2018年度 朝日スポーツ賞受賞

スポーツの分野で優れた成績を挙げた個人または団体に贈られる賞。1929年に創設した朝日賞（体育部門）、1975年度に独立した朝日体育賞の基本精神を受け継ぎながら1989年度からは対象をプロにも広げ、「朝日スポーツ賞」としてさらに充実。朝日新聞本社内の委員会で年間の記録などをもとに慎重に審議し、受賞者を決定。

大坂なおみ

テニスの全米オープンで日本勢初4大大会シングルス優勝

NPO法人日本ブラインドサッカー協会

視覚障がい者と健常者が協力してプレーする競技の特長を生かし「共生社会」への理解を促進

（写真： JBFA／鰐部春雄）

各事業紹介

◆ ハイパフォーマンス事業部　代表チーム部　各日本代表の強化を目的とした事業。練習会及び強化合宿の開催や国際大会への派遣などを行う。

ブラインドサッカー男子日本代表（パラリンピック公式種目）

世界ランキング

3位

ブラインドサッカー女子日本代表

世界ランキング

1位

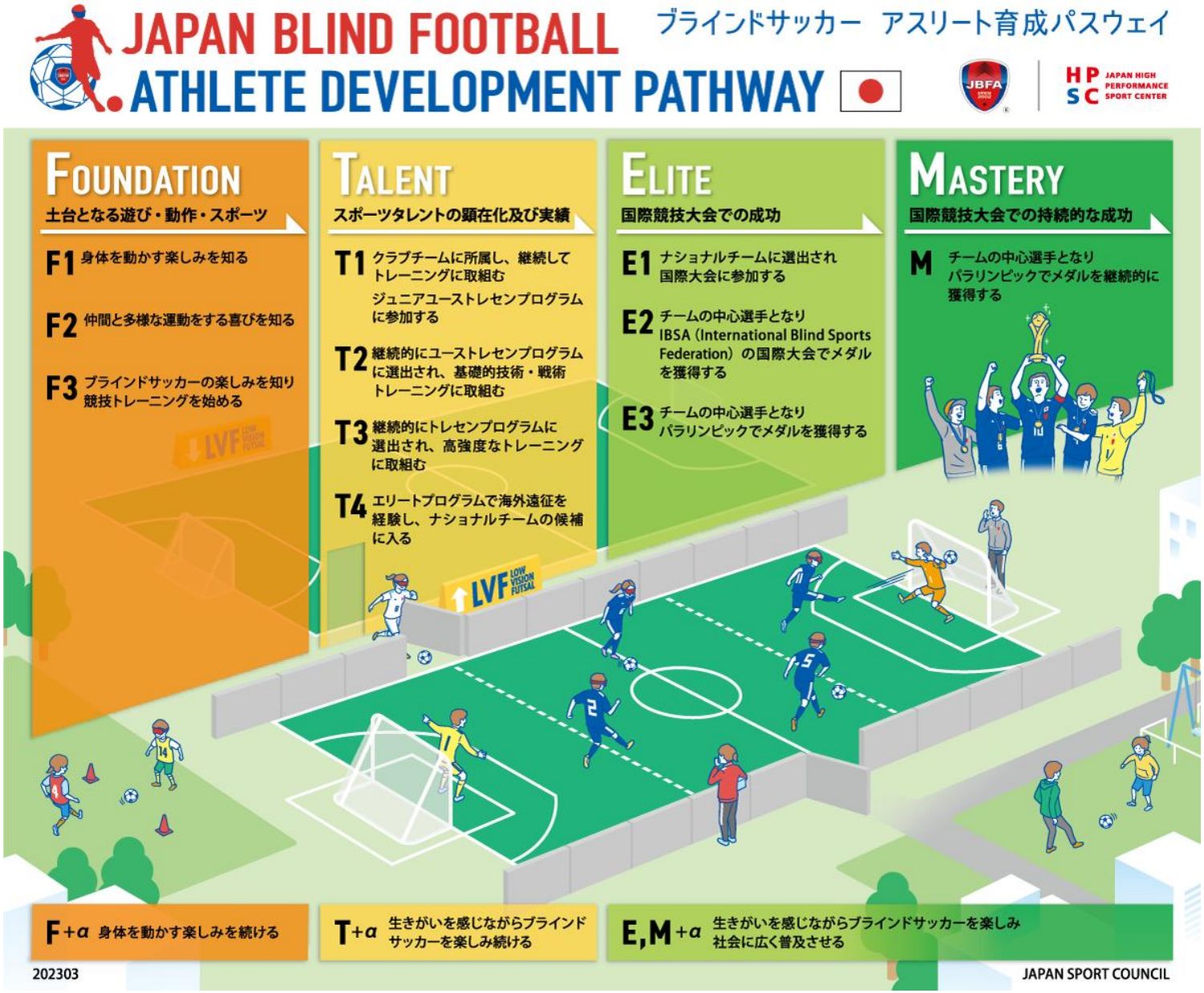
ロービジョンフットサル日本代表

世界ランキング

4位

全3カテゴリーで
シングルランキングは
世界で日本のみ！
(2026年1月付)

アスリートのパスウェイ



各事業紹介

◆　事業推進部 スポーツ推進グループ

国内のブラインドサッカーおよびロービジョンフットサルの普及を目的とした事業。盲学校や特別支援学校への講習会・用具寄贈、講師育成などを行うと共に、ブラサカ アカデミーとして各種プログラムを全国的に展開している。

◆　ハイパフォーマンス事業部 育成グループ

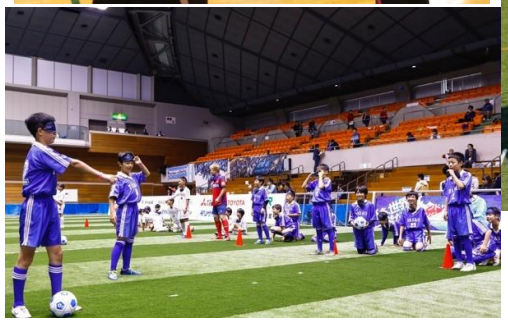
国内のブラインドサッカーの競技者／指導者の育成を目的とした事業。アスリートパスウェイを大切にした取り組みの推進。指導方法の研究、コーチ制度の推進などを行う。

BlackRock　SMBC日興証券　Santen　DAICEL

各事業紹介

◆　事業経営管理部 事業運営部 大会運営グループ
ブラインドサッカーおよびロービジョンフットサルの、国内競技大会を統括をする事業。

◆　事業経営管理部 事業運営部 D&Iグループ
晴眼者へのブラインドサッカーを使った体験を通じてビジョンの実現を目指す事業。小中学校向けの出張型教育授業「スポ育」、個人体験会「OFF T!ME」、企業・団体向け研修「OFF T!ME Biz」と、啓発イベントの実施などを行う。



アクサ　ASSETLEAD 株式会社アセットリード　kao ハートポケット倶楽部　Santen　insource　sojitz New way, New value
UACJ Aluminum lightens the world　Gakken　ガスの温もりを、かたちに。Paloma　Eat Well, Live Well. AJINOMOTO　JMTB 日本自動車ターミナル　DAICEL

パートナー企業、連携先のご紹介（2026年7月1日現在）

JBFAパートナー

アクサ
ASSETLEAD 株式会社アセットリード
SMBC日興証券
KPMG
AJINOMOTO
MARUI GROUP
Santen
TANAKA 田中貴金属
sojitz New way, New value
TOKON
SKYLIGHT Sports
DAICEL
三井金属

ブラインドサッカー男子日本代表スポンサー

Santen
アクサ
ASSETLEAD 株式会社アセットリード
AJINOMOTO
TOKON
sojitz New way, New value
KPMG
DAICEL

ブラインドサッカー女子日本代表スポンサー

Omeme.
TANAKA 田中貴金属
AJINOMOTO
ASSETLEAD 株式会社アセットリード
SKYLIGHT Sports
DAICEL
sojitz New way, New value
三井金属

ロービジョンフットサル日本代表スポンサー

R.O. clinic
SHIRASAGI 白鷺電気工業株式会社

日本代表ユニフォームスポンサー

KPMG

育成カテゴリスポンサー

DAICEL

オフィシャルサプライヤー

競技力向上パートナー

ONE TAP SPORTS
Data Stadium
SAKAImed
McDAVID
Therabody
ONDO
JAPAN FUTON
FUSION-FLEXI
ハイアルチ
BODYMETRIX
Build
SOXAI

アカデミーパートナー

BlackRock
SMBC日興証券
Santen

パートナー企業、連携先のご紹介（2026年7月1日現在）

スポ育パートナー

AXA アクサ
ASSETLEAD 株式会社アセットリード
kao ハートポケット倶楽部
Santen
insource
sojitz New way, New value
UACJ Aluminum lightens the world
Gakken
ガスの温もりを、かたちに。 Paloma
Eat Well, Live Well. Aji AJINOMOTO
JMT 日本自動車ターミナル
DAICEL

ソーシャルテクノロジーパートナー

ORCAM
ViXiON

日本障がい者サッカー連盟・加盟組織

JFF

OFF T!MEパートナー

ASSETLEAD 株式会社アセットリード

エリア・パートナー

DAICEL（播磨）

パートナーシップ協定

品川区
葛飾区
小平市
U-SPORT PROJECT
IBF FOUNDATION

サプライサービスパートナー

TOYO EXPRESS
sansan
KONICA MINOLTA
nekojarashi
ニチバン
insource
FUTURE
SKYLIGHT Sports
Beatfit
ダイヤモンド社
ルートイン ホテルズ ROUTE INN HOTELS
PR TIMES
cybozu
TOPICA
YOSHIOKA
L'OCCITANE EN PROVENCE

モデルケース創出パートナー

SHINAGAWACC

助成団体

スポーツ振興基金
日本財団 パラサポ
JAPAN SPORT COUNCIL

アライアンスパートナー

NexTide VOLUTION
CRIACAO
CHANNEL www.f-channel.net
日本ケアフィット共育機構
MOTHERHOUSE
Care pro Your Health, Our Mission.
ReBit

重要事項

<JBFAの登録商標について>

日本ブラインドサッカー協会は「ブラインドサッカー」およびブラインドサッカーに関連する活動のブランディング及び継続的な活動のために、知的財産権、登録商標についての管理・運用を行っています。

・BLIND SOCCER ブラインドサッカー（第5086068号／第5893826号）
・ブラサカ（第5900887号）
・スポ育（第5564500号）
＊詳細はHPをご覧ください： https://www.b-soccer.jp/jbfa/rights

<ご参照>

・正式名称について
ブラインドサッカーは英語表記で「Blind Football」と呼ばれます。和訳では公益財団法人日本パラスポーツ協会が「ブラインドフットボール」としています。JBFAは、「ブラインドサッカー」という呼称のブランド化に取り組んでおり、関連する呼称も含め「BLIND SOCCER」、「ブラインドサッカー」、「ブラサカ」を商標として管理・運用しています。

・「ブラインドサッカー（ブラサカ）」について
「ブラインドサッカーを応援しています」という表現、文言はJBFAパートナー及びJBFAサプライサービスパートナー企業さまのみが使用可能です。

・「スポ育」について
「スポ育を応援している」という表現、文言はスポ育パートナー企業さまのみが利用できます。

・「日本代表」について
「日本代表」はスポンサー制度となっていますので、「ブラインドサッカー男子日本代表／女子日本代表／ロービジョンフットサル日本代表を応援しています」といったメッセージの打ち出しは、男子日本代表スポンサー企業／女子日本代表スポンサー企業／ロービジョンフットサル日本代表スポンサー企業さまのみとなっています。

・「パラリンピック」の名称について
「パラリンピック」の名称は、国際パラリンピック委員会および日本パラリンピック委員会が管理する登録商標であり、許可なく用いることはできません。またウェブサイト、告知物等で「××社はパラリンピック日本代表を応援しています」等のメッセージを出すこともできません。

・JBFAが派遣元とならない日本代表の国際大会について
「日本代表」が国際的な大会に出場する場合、JBFAが直接派遣元となって出場する大会が一般的です。他方で、国際パラリンピック委員会やアジアパラリンピック委員会などが統括する国際大会は、日本パラリンピック委員会（JPC)が派遣元となり、JBFAはJPCに日本代表を推薦する立場となります。そのため、スポンサーの掲出や着用するウェアの規定はJPCのものに従うことになります。そのため、「パラリンピック」「アジアパラゲームズ」などは、JBFAとの契約の対象外となります。

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会
〒169-0073　東京都新宿区百人町2-21-27 ペアーズビル3F
TEL：03-6908-8907

@JBFA_b_soccer
@jbfa2002
@jbfa_b_soccer
b.soccer_official
Blind Football
Blind Football